

県内中小企業(製造業)景況動向

平成30年1月～3月期

総じて悪化傾向にあり、設備投資の動きも鈍化

本会調査結果概要

29年7月～9月



DI平均値▲14.3

29年10月～12月



DI平均値▲10.3

30年1月～3月



DI平均値▲11.5

来期見通



DI平均値▲2.9

業種別景況動向

食料品

7～9	10～12	1～3	来期見通

同期比の売上高DIは▲18.0、収益性DIは▲28.6で、両方を合せたDI平均値は▲23.3となり「小雨」模様が続いている。来期見通しは15.1ポイント上昇して▲8.2となるものの「小雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高DIは▲36.0、収益性DIは▲31.1となった。

また、雇用人員判断DIは22.7、設備操業率DIは▲23.2、設備投資実施率は22.4%となった。

繊維・同製品

7～9	10～12	1～3	来期見通

同期比の売上高DIは▲6.9、収益性DIは▲10.4で、両方を合せたDI平均値は▲8.7となり「小雨」模様が続いている。来期見通しは15.7ポイント上昇して7.0となり「曇」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高DIは▲31.1、収益性DIは▲30.0となった。

また、雇用人員判断DIは15.0、設備操業率DIは▲20.0、設備投資実施率は17.9%となった。

概況

売上高と収益性を合せたDI平均値(同期比)については▲11.5となり、前回調査(29年10～12月期)の▲10.3から1.2ポイント下降している。来期見通しにおいては▲3.4となり、前回調査から6.1ポイント下降している。業種別で高稼働率となつたのは「機械・機器・プラスチック製品」で、目的別では「品質向上」が30.0%でトップとなっている。また、来期の設備投資計画率については36.7%となり、前回調査から2.5ポイント上昇している。

売上高DI(同期比)については▲8.6となり、前回調査から1.3ポイント下降している。来期見通しにおいては0.0となつていて、売上高DI(前期比)については0.0となり、前回調査から2.7ポイント上昇している。

収益性DI(同期比)については▲14.4となり、前回調査から1.2ポイント下降している。来期見通しにおいては0.8となり、前回調査から2.2ポイント下降し、硬化している。

資金繰りDI(前期比)については▲8.6となり、前回調査から2.3ポイント下降し、悪化している。

金融機関の態度DI(前期比)については0.8となり、前回調査から2.2ポイント下降し、硬化している。

設備操業率DI(前期比)については▲8.0となり、前回調査から2.1ポイント下降している。

雇用人員判断DI(前期比)については23.0となり、前回調査から2.2ポイント下降しているが、依然として不足感が続いている。

設備投資実施率については25.1%となり、前回調査から5.0ポイント下降している。業種別で高稼働率となつたのは「機械・機器・プラスチック製品」で、目的別では「品質向上」が30.0%でトップとなっている。また、来期の設備投資計画率については36.7%となり、前回調査から2.5ポイント上昇している。

設備投資実施率については25.1%となり、前回調査から5.0ポイント下降している。業種別で高稼働率となつたのは「機械・機器・プラスチック製品」で、目的別では「品質向上」が30.0%でトップとなっている。また、来期の設備投資計画率については36.7%となり、前回調査から2.5ポイント上昇している。

いる。

設備投資実施率については25.1%となり、前回調査から5.0ポイント下降している。業種別で高稼働率となつたのは「機械・機器・プラスチック製品」で、目的別では「品質向上」が30.0%でトップとなっている。また、来期の設備投資計画率については36.7%となり、前回調査から2.5ポイント上昇している。

紙・加工品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲3.9	10.8	▲10.7	▲14.4

同期比の売上高D Iは14.3、収益性D Iは▲35.7で、両方を合せたD I平均値は▲10.7となり「小雨」模様に転じている。来期見通しは3.7ポイント下降して▲14.4となり「小雨」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲14.3、収益性D Iは▲57.2となった。

また、雇用人員判断D Iは「不足」、「過剰」とともに7.1%で0.0、設備操業率D Iは▲7.1、設備投資実施率は0.0%となった。

木材・木製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲13.7	▲35.0	▲20.8	▲33.4

同期比の売上高D Iは▲16.6、収益性D Iは▲25.0で、両方を合せたD I平均値は▲20.8となり「小雨」模様に転じている。来期見通しは12.6ポイント下降して▲33.4となり再び「雨」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲33.4、収益性D Iは▲33.3となった。

また、雇用人員判断D Iは8.3、設備操業率D Iは▲16.7、設備投資実施率は0.0%となった。

金属・同製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲2.9	▲13.7	▲3.1	7.8

同期比の売上高D Iは「増加」、「減少」とともに30.3%で0.0、収益性D Iは▲6.1で、両方を合せたD I平均値は▲3.1となり「曇」模様に転じている。来期見通しは10.9ポイント上昇して7.8となるものの「曇」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲15.1、収益性D Iは▲3.7となった。

また、雇用人員判断D Iは38.5、設備操業率D Iは▲3.7、設備投資実施率は28.1%となった。

窯業・土石製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲20.8	▲13.4	▲21.6	0.0

同期比の売上高D Iは▲21.6、収益性D Iも▲21.6で、両方を合せたD I平均値も同じく▲21.6となり「小雨」模様が続いている。来期見通しは21.6ポイントの大幅上昇で0.0となり「曇」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは▲41.6、収益性D Iは▲32.3となった。

また、雇用人員判断D Iは19.4、設備操業率D Iは▲9.4、設備投資実施率は25.0%となった。

プラスチック製品

7-9	10-12	1-3	来期見通
▲25.0	▲34.7	▲22.2	5.6

同期比の売上高D Iは▲22.2、収益性D Iも▲22.2で、両方を合せたD I平均値も同じく▲22.2となり「小雨」模様に転じている。来期見通しは27.8ポイントの大幅上昇で5.6となり「曇」模様に転じる見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは「増加」、「減少」とともに0.0%で0.0、収益性D Iは▲22.2となった。

また、雇用人員判断D Iは44.4、設備操業率D Iは11.1、設備投資実施率は33.3%となった。

機械・機器

7-9	10-12	1-3	来期見通
3.2	1.5	1.7	▲3.3

同期比の売上高D Iは「増加」、「減少」とともに27.9%で0.0、収益性D Iは3.3で、両方を合せたD I平均値は1.7となり「曇」模様が続いている。来期見通しは5.0ポイント下降して▲3.3となり「曇」模様が続く見通しになっている。

なお、前期比の売上高D Iは「増加」、「減少」とともに25.0%で0.0、収益性D Iも「好転」、「悪化」とともに16.1%で0.0となった。

また、雇用人員判断D Iは26.3、設備操業率D Iは5.4、設備投資実施率は39.0%となった。